



学校での熱中症対策について

2019年6月 町田市議会議員 矢口まゆ

今年5月に起こった小中学校の救急搬送について (水分・塩分補給の側面より)

- 町田第二中学校
- 南成瀬中学校
- 南中学校

持参OKなもの→水・お茶・スポーツドリンク
タブレットはNG

- 七国山小学校
- 南つくしの小学校

持参OKなもの→水・お茶
スポーツドリンクNG

WBGTを確認せずに体育祭練習を行い救急搬送...

23日に市内小学校で救急搬送があり
その日のうちに各学校へ**注意喚起の通知を发出。**

しかし

27日、**WBGTを確認せずに**体育祭練習を行い
複数名が救急搬送。(この日東京都心では32.4度を記録)

再発防止に
あたり、ココ
が最も重要

WBGTを確認しなかつ
たのはなぜか

誰がWBGTを確認するか決まっていなかった為

①WBGT測定担当者の取りまとめ

“体育授業の時には担任が測定。学年単位の活動では学年主任が測定。全校単位の活動では副校長が測定。”
と言うように、さまざまな状況下において誰が測定を担当するのか、すべての学校に決めてもらい、教育委員会でその情報を取りまとめる。

②WBGT測定記録表の保管

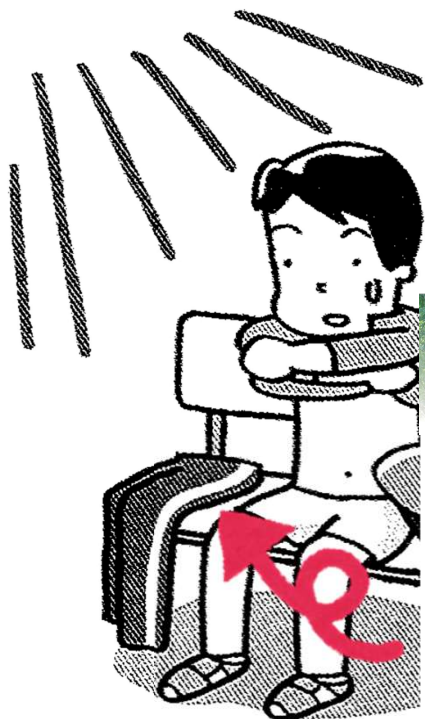
確実に測定されるよう、事故の無い平常時でも、測定されていなかった場合には後から気が付くことができるようにすべき。記録表を作成するよう全学校に指導し、その記録表を一定期間保管する等の取り組みが必要ではないか。

体操服については熱中症対策が無くて良いのか？

7

薄着ルックでさわやかに

皮膚からの熱の出入りには衣服が関係します。暑い時には軽装にし、素材も吸湿性や通気性のよいものにしませう。屋外で、直射日光がある場合には帽子を着用しましょう。防臭をつけるスポーツでは、休憩中に衣服をゆるめ、できるだけ熱を送りましょう。



運動部活動の指導マニュアル
中学校運動部活動を安全に行うために



2008年4月
町田市教育委員会指導課
町田中学校運動部活動事故再発防止検討委員会

町田市の小中学校の体操服の状況

中学校→全20校が白色で学校指定品

小学校→全42校が白色で体操着のメーカーや形状等の指定は無し。

白いTシャツでは重ね着が必要な場合も

女子だとスポーツブラジャーもしくはブラジャーの上に透け防止でさらに下着を重ね、その上に白Tシャツを着用する事になる。
(しかも、複数の学校では下着も白限定としている。透けやすい色である白い下着であれば、スポーツブラジャーやブラジャーの上にもう一枚着用しないわけにはいかない)

2007年に市内中学校で熱中症による死亡事故が発生。この事故をきっかけに作成した「中学校部活動を安全に行うために」と言う冊子では、“薄着ルックでさわやかに”と呼び掛けているが...

教育委員会自ら薄着を呼び掛けておきながら、薄着しにくい環境を放置しているのはおかしいのでは？

町田市立小・中学校長 様

町田市教育委員会
指導課長 金木 圭一

熱中症事故等の防止について（通知）

このことについては、別添通知（写）のとおり、平成30年5月23日付30教指企第340号、平成30年5月28日付30教指企第323号により東京都教育庁指導部体育健康教育担当課長から依頼がありました。

各学校におかれましては、4月19日に実施された「熱中症予防対応研修」の内容について校内で共通理解を図っていただいているところですが、体育授業や、部活動、体力テスト等を実施する際には、別添通知（写）及び下記事項に留意し、改めて児童・生徒の熱中症等による事故防止の徹底を図るようお願いいたします。

記

- 1 熱中症は、未然に防止できることや児童・生徒の健康や生命に甚大な影響を与えることを、学校全体及び指導者が十分に認識した上で、指導に当たること。
- 2 各学校においては、部活動をはじめとする教育活動全般において、天候・気温、活動内容・場所等の状況により、無理に活動せず自粛するなどの適切な判断をすること。
- 3 各小・中学校に配布したWBG T熱中症指標計による測定をこまめに行い、児童・生徒の健康管理に万全を期すよう適切に対応すること。

☆熱中症予防運動指針

- ・WBG T 31℃以上 : 運動は原則中止
- ・WBG T 28℃以上 : 嚴重警戒（激しい運動は中止）
- ・WBG T 25℃以上 : 警戒
- ・WBG T 21℃以上 : 注意

（公益財団法人 日本体育協会 ホームページ より）

- 4 「健康管理自己チェックシート」等を活用するなど、児童・生徒自身が自分の健康状況を自覚して健康管理できるようにすること。
- 5 活動前や活動中には健康観察を行い、体調が悪い時（下雨、発熱、疲労、睡眠不足等）は無理をさせないこと。
- 6 熱中症の疑いがある場合には、すぐに救急車を要請すること。
- 7 熱中症のための運動指針では、気温35℃以上での運動は原則中止です。特別の場合以外は運動を中止すること。
- 8 体力テスト「シャトルラン」等においては、運動前後の準備・整理運動や適宜水分補給を行うとともに、運動中の子どもの表情・状態などの健康観察を行うこと。

※参考資料

「中学校運動部活動を安全に行うために」
(2008年4月町田市教育委員会指導課、町田市中学校運動部活動事故再発防止検討委員会)

【担当】町田市教育委員会指導課

「中学校部活動を安全に行うために」 は、今も活用されているのか。

- 2007年に市内中学校で発生した熱中症による死亡事故をきっかけとして設置した、町田市中学校運動部活動事故再発防止検討委員会の助言から作成。
- 保護者や地域の皆様、あるいは生徒に直接配布するなどして活用できるよう意図した内容であると書かれている。
- 作成の意図を踏まえると、少なくとも新しく部活動指導員になられた方々にはもれなく配布すべきと考えるができていますのか。
- なぜHPで公開しないのか。

教育委員会から学校長への通知にも、今でも「中学校運動部活動を安全に行うために」を参考にしようとしている。本当に現場では参考にできているのか。



何が原因で熱中症になったのか？

- 救急搬送された児童生徒20名の症状は？
- 朝食の有無は？
- 水分補給の頻度は？
- WBGTは？
- 活動時間と休憩頻度は？

今後リスク因子を減らす努力をするためには、この5点については最低でも調査が必要ではないか。

熱けいれん

大量の発汗があり、水のみを補給した場合に血液の塩分濃度が低下して起こるもので、筋の興奮性が亢進して、四肢や腹筋のけいれんと筋肉痛が起こる。

熱疲労

脱水によるもので、全身倦怠感、脱力感、めまい、吐き気、嘔吐、頭痛などが起こる。頻脈、顔面蒼白となる。体温の上昇は顕著ではない。

熱射病（重症）

体温調整が破綻して起こり、高体温で種々の程度の意識障害が起こる。足がもつれる・ふらつく・転倒する、突然座り込む・立ち上がれない、応答が鈍い、意識がもうろうとしている、言動が不自然など少しでも意識障害がある場合には、熱射病を疑う。